

海風ふくまち

さがのせき

佐賀関

国定公園に指定された美しい日豊海岸から関あじ・関さばをはじめ、さまざまなブランド魚を世に送り出す漁業のまちであるとともに、歴史と文化、自然に彩られた地域「佐賀関」。

今回はその魅力を紹介します。

固 佐賀関支所 ☎575・1111

価値ある歴史に触れる

古くから海とともに暮らし、「古事記」と「日本書紀」にも伝説が記されている佐賀関。この地には、古墳時代の海部の勢力を感じられる「築山古墳」や、記紀の伝承との関連が考えられる「早吸日女神社」など、海にまつわる遺跡や建造物がそこかしこに点在しています。幕末期には坂本龍馬と勝海舟の一行も訪れたと伝えられており、歴史的にも見どころのあるスポットが存在します。

文化財にも指定されている「早吸日女神社」

紀元前667年、海女が「速吸瀬戸」の海底に住む大蛸が守る剣を取りあげ、東征する神武天皇に献上したといわれています。この剣をご神体としたのが、早吸日女神社です。1697年に造られた総門や1763年に建てられた本殿の他、社家が県指定有形文化財に、石鳥居や神楽殿などが市指定有形文化財になっています。地元では「関の権現様」として親しまれていて、毎年5月には藤棚のふじが見頃を迎えます。

全国的にも珍しい「蛸断ち祈願」も有名で、拝殿の内部には紙にタコを描いた多くの蛸断ち祈願絵馬が奉納されています。

市指定有形文化財
早吸日女神社拝殿



早吸日女神社拝殿に奉納された蛸断ち祈願絵馬



「蛸断ち祈願」は、一定期間タコを食べずに願い事をするとう成就すると言われています。



築山古墳 南側から見た前方部と後円部
(右側の木立)
後円部頂上に建てられた石棺の覆い屋と内部



徳応寺に所蔵されている「日本人物誌」

「神崎の石棺さま」と呼ばれる「築山古墳」

築造は5世紀初めごろと推定される、国指定史跡の前方後円墳です。全長約98メートルの海部を代表する古墳の一つであり、15点の鉄剣や鉄刀をはじめ、多くの装飾品や鉄製農具類が石棺から出土しました。鉄製の武器や農具類は畿内(近畿地方)から配布されたものといわれており、瀬戸内海から朝鮮半島に至る海上交通路を掌握したいヤマト王権が、海部との関係を重視していたと考えられています。

出土した遺物は県有形文化財に指定され、地元で大切に保管されています。また、古墳は「石棺さま」として本神崎地区の人々により守り伝えられており、毎年10月には「石棺様まつり」が盛大に行われています。

龍馬と海舟の記録を残す「日本人物誌」

1864年2月15日、勝海舟一行が長崎へ向かう途中に第二長崎丸にて佐賀関に上陸した際に徳応寺に宿泊。長崎からの帰りに宿泊した際の記録には、海舟とともに坂本龍馬の名が残されています。

龍馬・海舟の名前とともに船のスケッチも描かれていて、今も同寺に所蔵されている「日本人物誌」は、徳応寺第10世住職東光龍潭著。当時、暗殺を警戒していた龍馬は常に偽名を使っていたため、実名が記載されているとても貴重な資料です。

